



軽費 / 特養 / 高齢者在宅サービスセンター / サービス付き高齢者向け住宅 / ケアハウス / グループホーム / 小規模多機能

No. 309号

2013(平成25年) 5月

〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 TEL 042-527-0031(代) FAX 527-2646  
発行人：橋本 正明 編集：広報委員会  
ホームページ：http://www.shisei.or.jp/ Eメール：shisei-home@shisei.or.jp

Shisei Senior Service Center

## 新たな世代の羅針盤

### 法人将来構想基本計画について

将来構想検討委員 旭 博之

新年度、早咲き種の桜が順番を逸したようなソメイヨシノの満開を迎えた4月です。法人の100周年記念となった昨年度、法人の将来構想基本計画が策定されました。その名も「新たな世代の羅針盤」です。

これは、淑徳大学特任教授で法人理事の金子保先生が委員長に、常務理事の橋本正明至誠ホーム長が副委員長に、さらに3事業本部から各1人の施設長、そして4人の職員、外部委員として経営コンサルタントから1名の総勢10名で検討委員会を構成し2カ年にわたり検討し、本年1月に理事長に答申したものです。

委員会の特徴のひとつは、平成23年度に法人の実態把握を目的として法人の正規・契約全職員を対象とした千人にも及ぶ悉皆調査を実施したことです。調査自体類を見ない貴重なものですが、各事業本部の特性や実態が明らかにになりました。

次に、24年度にこの結果から導き出された特性や実態を「SWOT」と呼ばれる手法を用いてさらに分析し、法人の計画に反映させたことです。

その結果、将来構想計画として1. 経営 2. 運営 3. 人事・管理者育成 4. 法

人資金の造成 5. 公益的事業の展開の5つが示されました。

総括的に紹介すると、最初の、「経営の方針」では現在の運営体制である三事業本部制についてはこれを堅持したうえで、法人本部と各事業本部の関係、統制と分権の仕組みに意を払うこと。また、歴史と実績が示す、法人・各事業部の実践研究開発力と新規事業開拓力をこれまでも増して居住系サービスの開発・充実に発揮すべきとしています。また、現在に至るまで拡充を続けている事業展開については、単なる拡大路線をめざすものではなく、新たな事業展開にあたっては、その地域に根ざした福祉の拠点化を図るべきとしています。

次に「運営の方針」では、法人本部の機能充実について、法人としての意思決定の組織的な運営体制の確立と事務局の人員体制、専用棟の確保、設備の充実をあげています。

3つ目の「人事・管理者育成」の項目では、まず「人材」こそが法人にとって最大の「財産」であると位置づけた上で、諸事情から足並みのそろっていない三事業本部間での雇用条件について、極力平準化を目

## 新たな世代の羅針盤

法人将来構想基本計画

(平成24年度 将来構想検討委員会報告)

平成25年(2013) 5月25日

社会福祉法人 至誠学園立川

指すこと。また、新採用職員と管理監督者の研修については、法人として統一して実施する体制を挙げています。

4つ目の、「法人の資金造成」では、すべての事業において収支バランスをとることを基本的な前提条件とした上で法人全体での「事業調整積立金」の充実をめざすこととしています。そして、この積立金の充実を、法人将来計画の必須条件として位置づけています。

最後に、前項の資金造成、さらに運営方針にも大きく関係していますが、これからの社会福祉法人のあるべき機能としての「公益的事業展開」について述べています。社会福祉法人の本来の機能として地域に貢献しこれを支える事業。広く社会の不特定多数を対象とした支援活動。社会福祉の実践研究活動。国際的な活動として福祉活動のノウハウの提供や人材育成・交流。最後に制度にない法外の法人独自の開発的な事業への取り組みをあげています。

この、法人の将来計画を指針とし今年度以降、各事業本部で具体的な中長期計画の策定が計画されています。至誠ホームにとっては、第三次の中長期計画策定です。

ところで「羅針盤」とは、元来、船の方位・針路を図るもので船体の揺れや傾きに対しても常に盤が水平を保ち針が南北を指す装置です。法人の将来を、いかなる環境下でもはっきりと指し示す「指針」としてわかりやすい、最良で最高の名称です。

# 至誠ホームに勤めて36年7ヶ月

元至誠ホーム軽費・養護・ケアハウス園長  
元企画推進本部長

岡田 清



私が「老人

ホーム」とい

う言葉を認識

したのは、学

生時代に調査研究の一環で、老人ホームには養護老人ホームと特別養護老人ホームがあり、「特別」の意味を調べた頃からだと思います。

その後、縁があつて長嶋紀一（日本大学教授）を紹介していただき、至誠ホームに就職をさせていただいた訳ですが、半年後の昭和52年3月30日至誠特別養護老人ホーム開設、同年10月17日至誠デイケアセンター開設と続き、高齢化社会へ向かつての福祉事業の実践に従事させていただきました。

至誠ホームは、止まることを知らない傾向がありますが、これは、関岡武次元理事長が引用された「四書の一つ中庸の中に『至誠無息（しせいやむことなし）』という言葉があり、まさに至誠学舎の事業は休むことなく続いている」と

表現されましたが、たしかにそのとおりだと思います。

仲村優一（元理事長）からは「グローバルな視点でローカルな実践」を強調され、グローバルイズムの視点の重要性と、バリアフリーの概念を越えたユニバーサルデザインがこれからの福祉事業の展開には必要なことを教えていただきました。

橋本良市（元理事長）は「福祉実践心の基本10カ条、人間尊重、平等性、福祉のまちづくり等」「プロに要請される資質7項目、仕事に命、誇り、先読み等」「福祉への夢と希望を実現するための努力は一つも苦勞ではない」など、福祉事業実践の心得について説かれました。

橋本富美子相談役は、経営の実践、措置費・補助金制度等の経理の考え方と同時に、至誠ホームの利用者およびその家族関係について実に広く深い知識と情報を持たれているため、ソーシャルワーカーとして、その秘訣を尋ねたところ「本気で真剣に聴くことよ、そうすれば覚え

られる」とさり気なく仰いました。

橋本正明至誠ホーム長からは「役立つ福祉サービスの実践」「事業の発展継続性を裏付ける伝統は、変化に対応し、革新を重ねた結果であること」を指摘され、福祉事業の本質と社会環境の変化に適應することの重要性について示唆を与えていただきました。

高橋利一（元理事長）からは創設者稲永久一郎翁の「まことの心」の解釈とともに至誠学園の会議室にある書道額「明直健（あかるくなおくすこやかに）」に込められた法人の伝統と児童福祉実践のモットーにした背景を聞かせていただきました。昨年は、法人創設100周年を迎え、関連事業として、年史の編集委員として、歴史を振り返らせていただきました。また、法人の将来構想基本計画作成のための検討委員会の事務局も担当させていただきました。歴史の重みと伝統への誇りを感じると共に、歴史の一部に従事できたことへの感謝の気持ち強く感じました。

定年まで勤めさせていただいた背景には、仕事にも人生にも優れた諸先輩のご指導とご鞭撻があつたからこそと深く感謝を申し上げます。

定年退職を迎えるにあたり、法人および至誠ホームへの感謝の気持ちと同時に、さらにこれからの法人事業への期待を述べさせていただきます。

ばさせていただきます。事業の対象者は子供から高齢者まで、さらに家族・地域等の関係者を含めると、人々の生活・人生の幅広い範囲を対象にしています。多様な人々への福祉活動の基本的な方針・考え方は法人が培ってきた伝統に裏打ちされていると思いますが、法人として子供・障がい者・高齢者に共通する「人間観」を科学的に確立させ、「至誠学舎モデル」として国内のみでなく、世界の社会福祉の見方・理論を変えるほどの成果を期待したいと思えます。

さらに、地域の皆様方へのお願いは、福祉事業を充実発展させるためには、資金が必要で、施設整備への公的な補助金も十分ではなく、法人の自己資金が以前にも増して重要になってきています。事業を進めるための施設・設備整備で公的な補助金を得るためには、事業の計画書、協議書等の提出から始まりますが、資金計画・借入金の返済計画等が適正に作成されていないと公的な補助金を受けることも、公的な借入金をお願いすることもできません。そのため、平成25年度から至誠ホームでは新施設建設の目的で、資金造成キャンペーンを展開される予定です。是非、趣旨をご理解の上、ご賛同いただければ幸いです。

永い間お世話になった皆様、本当にありがとうございます。

# フィンランド施設との 交流を通して

至誠ホームでは、フィンランド・ヘルシンキにあるヘルシンキ高齢者財団との職員交換研修を1992年から長年実施しています。双方から毎年2名程度の職員がこのプログラムに参加して互いの高齢者ケアについて学ぶことを目的としています。

平成24年度は3月15日から4月4日の期間で、フィンランドから二人の女性が来日されました。タンニャ・ムストネンさんと、ビルギット・ケスキ・オパスさんです。

約3週間という短い期間ですが、主に至誠特別養護老人ホームと至誠キートスホームで日本の高齢者ケアを学び、お二人にとって大変有意義な研修になったようです。

また今回は我々からのリクエストで、至誠ホーム職員に向けた勉強会の時間をもちました。勉強会当日は、夜にも関わらず大勢のホームの職員が参加して、フィンランドにおいて、重要なケアの一つとされるフットセラピー(足の治療)と、ターミナルケアの実践を学びました。

他にもお二人がオフの時には日本文化に触れるためいろいろな場所にも行きました。富士山(残念ながら雨でした...)、温泉、ショッピングやお寺巡りなどです。もちろん日本食にもトライしてもらいました。その中で特にお二人のお気に入り「天ぷら」でした！

遠くフィンランドから来た研修生に、日本のケアの考え方を伝えるということには「我々が大事にしていることは何か」と、自分自身に向き合う大変貴重な経験にもなります。福祉の先進国と言われる北欧と日本とを比較して、文化の違いによるケアの違いはもちろんありますが、共通していることも多くありました。それは「高齢者の幸せを一番に考える」ということでした。こうした取り組みを重ねて今後もより良いケアへとつなげていきたいと実感します。

企画調整 主任 佐藤徹郎

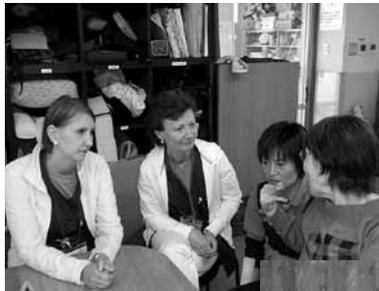
帰国されたご本人よりのメッセージです。

無事にフィンランドに帰国しました。こちらはまだまだ寒く、雪が約40cm積もっています。昨夜も雪が降り、気温は-10度の世界です。

私達はとても素敵な時間を日本で過ご

すことが出来ました。至誠ホームの皆様にかくさんの感謝を申し上げます。研修スケジュールも大変有意義なものでした。3週間の期間があつという間でした。そして日本で満開の桜と木々の新緑を見ることが出来てとても良かったです。私たちは至誠ホームそして日本で学んだ多くの事を忘れることはないでしょう。次は至誠ホームの職員の方々にフィンランドでお会い出来る事を心待ちにしています。

至誠ホームの職員の皆様にご挨拶になりました。どうも有難うございました！



タンニャさん(左)とビルギットさん(右)の様子を見学する



ホームの職員も大勢参加した勉強会。ビルギットさん(左)とタンニャさん。右側は通訳をしてくださったライヤさん



平成25年3月18日(月)  
第41回利用者相談  
委員会が開催されました。

今年度2回目の利用者相談委員会では、10月以降に寄せられたお手紙(ご要望1件、その他1件)と、直接お寄せいただいたご意見等3件について話し合われました。そのうちのいくつかをご紹介します。また、最後には今年度のもめがけが行なわれました。

◆道路沿いのホーム入り口看板を大きく見やすくしてほしい(要望)(L24-03 錦地区本館)

至誠ホーム本館に寄せられた、利用者の方からのお手紙です。

【対応】自動車でお越しただく方が見やすいように、表示を改めました。

【委員のコメント】ホームへの入り口がとてもわかりやすくなりました。

◆整理整頓がよく出来ていてとても気持ちがいい(L24-04 調布若葉)

調布若葉ケアセンターをご見学された際、頂いたお手紙です。

【委員のコメント】今後とも、地域の方々を利用しやすいセンターの運営に努めて下さい。

◆至誠ホームの入口付近で起こった車両

事故の処理のために、車で入ることができなかった（錦地区本館）

ホーム関係者以外の事故が原因で、当時警察車両が入口をふさいでいたため、ホームに進入することが出来なかったという内容です。警察にもその旨伝えてほしいというご意見でした。

【対応】ホーム側から警察に車両の止め方を配慮してほしい旨伝えました。

【委員のコメント】事故であればある程度仕方がないと思いますが、ホーム側からも後日連絡したことで対応としては良かったと思います。

〈報告事項〉

平成24年度のお手紙は合計5通でした。内訳は、ご要望が3件、その他に該当するものが2件でした。また、苦情受付専用電話へのお問い合わせは1件で、一般電話によるものや直接お話し頂いたものが4件でした。

〈平成25年度の第三者委員〉

平成25年度も委員長山田美和子さん、委員として皆口万里子さん、山下清超さんに引き続きお願いいたします。

疑問に思う事やお困りのことがありましたら、遠慮なく身近なスタッフにお声かけください。至誠ホームでは皆様からのご意見をお待ちしております。（要望の伝え方は8ページ上段をご参照下さい。）

第18回

至誠ホームサービス向上大会

サービス向上委員長 益 子 総一郎

本年度のサービス向上大会は、3月15日（金）に立川市女性総合センターアイムで開催されました。この大会は至誠ホームの職員がサービスの質の向上を目指して1年間掛けて取り組んできた内容と成果を発表し、至誠ホームの高齢者ケアを広く知っていただくために行われているものです。当日は外部の方、職員など合わせて130名以上の皆様が来場されたいへん盛況な大会となりました。

今回発表のサークルは、全18サークルが参加した3つの地区大会で代表となった「至誠ケアセンターもとまち」「錦特養3階センターシヨート」「キートス特養3階」の3サークルでした。審査の結果「シヨートステイのリスクマネジメント」をテーマにした錦特養3階センターシヨートと「シヨートステイの24時間シート導入について」をテーマとしたキートス特養3階が最優秀賞を受賞しました。

また、至誠ホーム天寿を全うするケア研究会が中間報告「利用者インタビューより見えてきたこと」を行いました。「家族と施設のケアの協働化」についての提言に関心を持たれた方も多かったようです。ご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。

錦ブロック特養3階センターシヨート

「シヨートステイのリスクマネジメント」安全な生活のため  
に私達にできる事」

シヨートステイは短期間施設に滞在する在宅サービスですが、継続して利用者を観察できる特養と違い、利用者の状態を把握しづらいなど、さまざまなリスクを感じています。そこで、今後も安心してご利用して頂く為に、リスクマネジメント（危機管理）に取り組みました。私達が感じる主なリスクは、①職員間の情報共有が難しい。②ご自宅と施設との生活環境が違う。③ご家族との信頼関係の構築が難しい。などです。

これらを解決する為に、まず初回利用者受け入れ用の書式を改善し、知りたい情報を漏らさずお聞き出来るようにしました。それらの情報をスタッフ間で共有する為、他職種へも情報を発信します。

また、利用中に緊急を要する状態になっても、スムーズな対応が出来るよう、状態に変化があれば、早い段階でご家族へ連絡するようにしています。高齢者は加齢による身体機能の低下で、様々な事故に繋がりがやすく、お元気な方でも、転倒・窒息・急変等の危険もある事を人時にきちんとご説明し、ご家族と一緒にケアを考える事が、信頼関係の構築に繋がると考えています。

キートスブロック特養3階

「シヨートステイ24時間シート導入について」

キートスホーム3階シヨートステイユニットでは、情報共有が困難であること、統一されたケアが実施されていないこと等の課題がありました。入居者の情報共有ツールとして効果を挙げていた24時間シートの導入



を試みましたが、担当職員だけの活動には限界があり、フロア職員からの反応も芳しくなかったことから、フロア全体で取り組んでいくこととしました。

アンケートやグループワークを通して、3階職員全員がシヨートステイというサービスについての理解を深めるとともに、24時間シートの意義を確認することができました。その結果、シヨートステイユニットでの24時間シートの導入と活用に至ることができました。

また、職員全体の意識の高まりから、1日2回の引き継ぎの中での情報共有・意識共有が活発となり、現在も続いています。

今後の課題として、24時間シートの内容の充実と管理方法などの仕組みの整備・継続的に活用できるようにしていくことがあります。また、多職種・他フロア・他事業所と連携して密な情報交換・共有を図り、シヨートステイを必要としている全ての方々のために努力していきたいと考えています。

#### みんなブロック至誠ケアセンターもまち

「ためない！与えない！もらわない！」  
「ストレスに負けないチームづくり」

ストレスを一人のためこんでしまうと健康管理や日常の業務にも影響を及ぼす場合があります。至誠ケアセンターもまちでは、「明日もまた来たくなる職場にしよう」という目標を立て、働きやすい職場づくりに取り組みました。

一口に「ストレス」といっても色々ありますが、職場でできるリフレッシュ方法と電話対応に関わるストレス軽減方法に着眼しました。

私たちはこの取り組みを通して、ストレスが個人によるものだけでなく、周囲との相互作用によってつくられもするし減らせることもあるという点に気づきました。それは、仕事の要である「チーム」の中でコミュニケーションを良好に図ることがストレス軽減に有効ではないかということなのです。

もとまちでは、前回のサービス向上大会で支援経過記録の質と効率の向上を追求してきました。そして今年度の取り組みを通して、業務の「質」と「効率」を高めていくことについても、良好なチームのコミュニケーションが重要であることが分かったのです。

職員同士のやりとりに限らず、利用者や他事業所とのより良い関係づくりにつながるよう、今後も継続性を持って取り組んでいきたいと思えます。

## 『天寿を全うするケア研究会の取り組み』

担当委員 佐藤 徹 郎

天寿を全うするケア研究会は平成23年4月に発足しました。メンバーは介護職員や看護師、相談員など多くの職種が参加して、施設で暮らす方々が安心して最期を迎えられるよう支援するにはどのような関わりが重要か、ということとをそれぞれの専門的見地から議論しています。また、現在では外部から心理職などの様々な専門職も加わり、必ずしも一つの考え方に集約しないよう、客観的な視点を持ちながら研究活動を進めています。

23年度は施設で亡くなられたご遺族の方にご協力をいただき、複数の方にインタビュー調査を行いました。振り返ってみてお感じになっていることを伺い、家族が抱える特有の想いや悩み、葛藤や不安などを聞かせていただくことで、大変多くの学びがありました。

そして24年度はその対象を施設に入居されているご本人に移し、いまお感じになっていることについて計8名の方に直接お伺いしました。これについては非常にデリケートな質問ですので、日頃から関わっている職員がインタビューとなり、信頼関係の構築された中でお話を聞かせていただきました。

もちろんお一人お一人考え方や捉え方は異なりますが、その中でも共通している部分がありました。まとめると次の7つに要約されます。①そもそも人はどのように最期を迎えるのかわからない ②とにかく人に迷惑をかけたくない ③ホームでの看取

りを知らなかった、こうした話が出来て安心した ④これまでの体験からホームでのお見送りは感動的だった ⑤出来るなら仲間や職員がいるホームで最期を迎えたい ⑥やはり最期は自分の意思を尊重してほしい ⑦しかし家族とはまだ話ができていない。という内容です。

あくまで今回の8名のご意見の中で共通したものではありませんが、どれも施設で暮らす入居者の心を素直に表したものと感じます。

確かに誰しも自分の最期は未知のことではありませんが、漠然とした不安を払拭するきっかけは施設での暮らしの中で多くあることも事実です。その一つがホームで亡くなった方を見送るといふ体験、そして身近にいる職員からの投げかけや情報の提供です。今回インタビューを受けた方から「こういう話が出来て安心した」「今日初めて自分の気持ちをお話することが出来た」というお話しもありました。職員側もタブー視し過ぎていたのかもしれないと気づきました。

また、わずかなインタビューの時間でご本人の表情が変わっていく様子が印象的でした。それはきっと職員側からの情報による「理解」と、支えてくれる人がいるという「安心」のためだったのだと思います。

実際に関わる職員のための看取りケア指針も完成間近です。今年度も本研究会では看取りケアについて更に内容を深めて参ります。

ボランティア受入 / 福祉学習協力状況

Table with 3 columns: 種類, 期間, 平成24年度 2月~3月, 平成24年度 累計. Rows include 一般ボラ, インターンシップ, ボランティア体験, 実習・研修, 体験学習, 見学・視察, ご慰問・ご招待.

ボランティア活動状況 活動内容別

Table with 3 columns: 活動内容, 期間, 平成24年度 2月~3月, 平成24年度 累計. Rows include 生活支援, 健康づくり, 生き甲斐支援, 地域支援, 行事, 事務等, ボランティア体験, 合計.

ボランティア活動状況地区別

Table with 3 columns: 地区別, 期間, 平成24年度 2月~3月, 平成24年度 累計. Rows include 錦地区, 幸・柏地区, 国分寺地区, 合計.

至誠ホーム利用者状況

(平成25年2月1日~25年3月31日) ( ):実人数

Large table with 5 columns: 事業内容, 2月, 3月, 累計. Rows are categorized by 事業部 (主事業, 介護保険, 事業) and サービス種別 (自立者短期入所, 短期入所生活介護, 通所介護, 訪問介護, 居宅介護, 介護予防).

\*入居施設定員 至誠特別養護老人ホーム150名、至誠ホームキートス70名、至誠ホームミナ小規模特養29名、至誠和光ホーム50名、至誠ホームオミ・ケアハウス50名、至誠ホームオミ・グループホーム9名、至誠ホームミナグループホーム18名

<> はV体験で内数

ホーム日誌

平成25年2月1日~平成25年3月31日 CH・ケアハウス、GH・グループホーム 自主研・職員自主研修会

- 2月 悠々クラブ世話人会(キートス) / 悠々セミナオペラコンサート CH・GH・せせらぎ合同豆まき サービス向上大会錦ブロック地区大会 マーガレットサロン 法人と錦六会合同防災訓練 サービス向上大会キートスブロック地区大会 ボランティア交流会 給食委員会(和光) / コーヒータム(ミナ) ともしびご法話(錦地区) / ぷらっと なみきサロン(ミナ) おもちゃ図書館(キートス) / 市民交流講座陶芸教室(キートス) サービス向上大会 スオミブロックホーム地区大会 / 運営推進会議(若葉GH) 情報公表訪問調査(錦特) 自主研「褥瘡予防」(キートス) 特和会「おふくろの味」(錦特) / 由貴 シュナイターさんボランティアで来日(3/9) ホームヘルパー再チャレンジ講座・介護技術編(キートス) 錦町芸能文化祭 運営推進会議(スオミGH) / 井原先生相談日(錦地区) / 居宅・包括合同勉強会(キートス) 運営懇談会(スオミCH) / 食べ歩き外出(鷺啼庵(和光)) コーヒータム(ミナ) / ボランティア交流会 / 杉井弁護士相談日(錦地区) 3月 法人合同新人研修 家族会幹事会(錦特・和光)

感謝録

- 5月 ロビーコンサート(ミナ) / 特養第3者評価ヒヤリング(キートス) 井原先生相談日(錦地区) / 自主研「事故予防・身体拘束」(キートス) 救命救急講習 ありがとうの会(錦特) / 特養契約職員研修(キートス) ホーム委員会(錦特) / キートス集会 餅つき大会(キートス) 感謝の会(和光) / 食事懇談会(キートス) / コーヒータム(ミナ) / 体操送迎ボランティア交流会 / 自主研ユニットケア重度化対応報告(キートス) せせらぎ懇談会 / サービス向上大会 本大会 キートス集会 / ぷらっとなみきサロン(ミナ) おもちゃ図書館(キートス) 利用者相談委員会 春の彼岸供養祭 / 北欧会「フィラ」ンド研修生歓迎会 給食委員会(和光) 全体集会(錦特・和光) 和光集会 運営懇談会(スオミCH) / コーヒータム(ミナ) / 運営推進会議(ミナ) / 至誠ホーム調布柴崎ケアセンターオープニングセレモニー / 特養第三者評価報告会(キートス) 25年度法人辞令交付式

① 金員の部

- 温かい御支援・御協力下さいました方々に厚く御礼申し上げます。 平成25年2月1日~平成25年3月31日(敬称略) カーテル子 金丸 等 山縣佐貴子 吉田一男 海東茂樹 岩崎イマ 下東玲子 野村せい 谷口一美 山田美和子 (有)三高家高橋勝行 川原経営グループ代表川原丈貴 東京女子体育大学地域交流センター所長大森雅子 山下清超 師岡恵美子

社会福祉法人調布市社会福祉協議会会長  
元木輝昌 大村洋永

② 物品の部

20件 (延359件)

浅利久美子 伊藤英雄 表田俊明  
岩崎美穂 カーテル子 木村和史  
アビリティーズ・ケアネット(株)会長兼  
社長伊東弘泰 亀谷和子 木村方美  
川原経営グループ代表川原文貴  
川原経営総合センター「ふくろう会」  
事務局 阿部準一  
社会福祉法人多摩養育園理事長足利正哲  
日本音楽文化交流協会 本多宗吉  
社会福祉法人東京都社会福祉協議会東  
京善意銀行 大澤ゆき  
西武信用金庫立川南口支店支店長牛山  
淳一 クン・プロダクト

③ ボランティア

24件 (延1200件)

① 一般ボランティア(錦地区)  
【立川市】おはなしたまご 菊正会  
NPO法人立川レクリエーション協会  
髪職人 錦六茶友会 真如苑社会貢献  
部 鈴の会 すだちの会 なでしこ  
談話室アイアイ みどりの会  
もみじ会 日本キリスト教団立川教会  
遊木会 悠ゆうクラブ  
立正佼成会壮年部ボランティアチーム  
朗読サークルこえ  
相田茂子 青木早苗 麻生ミエ  
綾部 勇 安藤道子 五十嵐和子  
石部トヨ子 板谷 亨 伊藤信子  
岩谷淳子 及川悦子 及川清一  
大古春子 太田 利 大館純子  
小川 隆 奥 一郎 奥 陽子  
小栗カト子 尾園栄子 加藤かつ江  
梶浦善江 加藤衣子 加藤典子  
金澤シズ子 川崎秀子 神田ミヨ  
岸 幸子 木村千世子 木村玲子  
蔵田郁枝 黒羽里枝 小松万壽子  
近藤庄司 坂口秀政 坂本美智子  
佐々木慶吉 佐藤カヨ子 篠村綾子  
山同千賀子 篠原園子 篠村綾子  
下東玲子 ジョージ兼路

杉田幸子 鈴木恵子 鈴木幸子  
瀬戸章子 瀬山和彦 染谷球子  
鷹左右清道 鷹左右元代 高田和彦  
田中由紀子 田原衣子 田村和子  
遠山百世 戸田フミ子 永山幸子  
根岸 司 橋口初子 野村祥子  
橋本美津子 橋本ライヤ 坂場雛子  
濱 靖子 浜中広子 古谷文子  
宝諸博文 前中美佐子 前中光雄  
宮内雅子 百瀬千枝 矢島美穂子  
安ヶ平金造 山岸國麿 山田ハル江  
吉川厚子 吉田一男 米山勝利  
若村ふみ子 渡部調匡  
【日野市】ウケホアヘレ 音楽ひろば  
クイーンマジッククラブ  
池田貞栄 石井匡代 今井幸子  
岩下昭子 遠藤宣子 大場春子  
金尾真砂子 小塩菊子 阪口満里子  
鈴木百合子 須山ひとみ 竹内美幸  
直井 節 永島律子 西垣まき子  
西野益石 山崎一雄 星野京子  
目黒美知子 平沢未来子 高崎武子  
【国立市】 明石浦子 蔵多美智子  
国生友子 玉井末子 戸田竜史  
中澤妙子 温品典子 久野安沙子  
三谷紀子 向井みどり  
【国分寺市】 国分寺婦人Vグループ  
芳賀邦正 芳賀久美子 前田博美  
【他市】 聖書の会 ともしび法話会  
中藤ボランティア会 立教大学セカン  
ドステージウクレレ合唱団  
阿川聰子 有坂礼子 磯崎静子  
板倉 萌 木下ほか 榊まり子  
坂田哲男 島村正博 佐藤杏南  
シュナイダー由貴 鈴木保明  
丹治信江 中財真紀 渡邊綾子  
延1161名

一般ボランティア(コモホーム)  
【立川市】 阿部志げ子 磯野俊雄  
大井田フサエ 加藤 清 金子元衛  
金三津ゆき子 宮下皆子  
【日野市】 小澤洋一 延52名  
一般ボランティア(キートス)  
【立川市】 柏町隣人会 音楽隊  
朗読サークル「こえ」 おもちゃ図書館  
キャン 錦東会 双葉幼稚園  
ソロプチミスト  
青木融子 荒井和子 生澤清子  
池田三郎 石川悦子 板羽多枝子  
稲垣明子 岩田綾子 岩崎カト子  
潤井和子 及川宏克 大西次子  
大庭文子 大枝恵美子 織原良江  
加賀晴子 笠間久子 菊森 耐  
菅生佳子 河野美和子 菊池正勝  
北瀬明子 絹谷光江 木村浩通  
草場久子 紅林由美子 黒田真知子  
神山喜久江 小昏久美子 斎藤 博  
酒井恵子 櫻井百合子 澤田照代  
三中西博介 三中西せい子 新林春子  
鈴木洋子 高橋 貞 高橋明子  
高橋ひさ 高橋 睦 高橋征子  
高橋雪子 高橋好弘 田中清子  
田中秀穂 田中真知子 田中美智子  
田邊シゲ子 谷本鈴響 塚原すみ子  
辻 靖子 鶴巻清子 鳥居美都琉  
中沢京子 中嶋カト子 中西靖夫  
永松 紫 成田 綴 羽村ミサ子  
服部ちづ子 濱田弘子 羽村ミサ子  
松原菜都子 平野信子 福地嘉江  
藤井美千代 古島清子 別府ひろ子  
本間秋子 松本和美 三嶋節子  
溝口礼子 宮坂一栄 宮島君代  
村野紀美子 望月清美 持丸 治  
持丸弘子 元島美子 桃野幸子  
山口弘子 山田佳子 米澤 稔  
渡会和子 渡会弘恭 エプロン隊  
【国分寺市】 エプロン隊  
井上允恵 岩崎京子 小野千代  
小野俊雄 勝倉ナホミ 加藤康子  
時枝由美子 中山淳子 橋本美穂  
藤本俊郎 藤本睦代 山本佳子  
【他市】 ロゼニ・ウイングス  
花島演芸 都民のメガネ  
磯崎志帆 井上玲子 内田喜美子  
内田純子 影山和子 黒岩二三子  
河野秀子 児玉早苗 佐々木染子  
鈴木真弓 高野信子 寺崎勢津子  
野本まゆみ 林 幸子 土方和子  
肥田木雅子 保坂栄子 松井順子  
宮崎典子 山越美津江 横川澄子

渡辺保子 延741名  
一般ボランティア(柏センター)  
東 トク 石橋京子 市村敏雄  
岩田綾子 大山紀子 黒田直子  
小林正子 小林好子 斉藤 究  
鈴木真弓 高橋明子 高橋雪子  
中野庸夫 羽村みさ子 平野信子  
平野富士枝 土方和子 広木かほる  
師岡恵美子 鷺沢美美 延122名  
一般ボランティア(ミシナ)  
【国分寺市】 熊崎咲子 熊崎 弘  
笹谷信子 佐野文子 中村啓子  
滝沢百合子 小林伸子 濱 ひで子  
原垣内和加子 三谷雄次 角 文喜  
丸山秀雄 井上和江 古城 涉  
新澤 明 山根泰宇  
【他市】 宮スターズ 延65名  
一般ボランティア(もとまち)  
【国分寺市】 国分寺婦人Vグループ  
石橋幸子 仲 静宏(他5名)  
宮田美代子 和田博子 池田幸子  
山本賢弥 横山交子  
【他市】 福田洋子 中山久仁彦 延68名  
吉富晶子 萬 由美  
一般ボランティア(調布若葉)  
【調布市】 石橋隆二 岩崎ゆず  
江上芳子 小川芳昭 押部忠康  
小泉圭右 齊藤 孝 椎名ひさよ  
露木 薫 中澤禮吉 永宮俊一  
深瀬やす子 山本 剛 吉本三紗 延57名  
萬 由美 渡辺隆雄  
【錦】  
至誠保育園 橋本エリナ 橋本リリヤ 延47名  
青木 愛

福祉学習協力

① 実習研修

◎社会福祉士  
文京学院大学 宇敷千春・清水里味子  
(23日) / 十文字学園女子大学 長谷川  
祥子(10日)

◎ユニトリージャー研修

太田恵・岡ちあき・柴原加代子・伊藤  
友美・坂田恵子(各1日) 松田瞳・園  
部福美・高橋操・舟越荘信・金田枝里  
子・水口朋子・森健太・姉帯妙子・白  
鳥麻美・伊藤萌・小林律子・宮澤洋子・  
太田豊・井澤とし子・佐藤啓子・玉木  
伸和・荒井紗綾花・小沼敦子・内田裕  
久(各5日)

◎その他の実習

訪問介護員養成研修2級課程  
東京家政学院大学 4名(各1日) 延156日

② 体験学習(錦地区)

国立音楽大学・東京女子体育大学  
計8名 延40日

③ インターシップ

なし  
計0名 累計3名

④ 見学・視察

一般財団法人高齢者住宅財団市川様他  
2名 / 社会福祉法人桜栄会特別養護老  
人ホーム恵比寿苑山本悟様他2名 / 社  
会福祉法人嬉泉袖ヶ浦ひかりの学園石  
井啓様他4名 / 全国家庭科教育協会河  
野様他17名  
計29名 累計204名

⑤ ご慰問・ご招待

なし  
計0件 累計2件



# 後援会コーナー

## 後援会費納入者ご芳名

誠に有難うございました。厚くお礼申し上げます。  
(敬称略・順不同)

平成25年1月1日～平成25年3月31日

- 武富 智 高橋教子 小川昌子
  - 堀田裕子 談話室アイアイ谷口富美子
  - 安本善理 安本善博 田中きぬゑ
  - 三石和美 三橋喜久 岸 幸子
  - 青木和子 佐藤美智子 西久保加代子
- 以上14名

### ◆利用者相談委員会に苦情や要望を伝えたいときは

- ①お手紙コーナーポストに投函する  
各事業所に設置されています。
- ②苦情受付専用電話を利用する  
担当者がお話を伺い、苦情対応責任者や利用者相談委員会に報告・相談します。
- ③利用者相談委員に直接電話する  
各所に掲示してあるポスターに委員の電話番号が記載されています。
- ④市の苦情相談窓口相談する  
立川市福祉保健部高齢福祉課在宅支援係等042-5233-2111
- ⑤東京都社会福祉協議会 福祉サービス運営適正化委員会事務局に相談する  
03-5283-7020 (専用電話)

# 地域包括支援センターコーナー

- 立川市北部中さいわい地域包括支援センター042(538)2339
- 立川市にしき福祉相談センター042(527)0321
- 国分寺地域包括支援センターもとまち042(301)5001
- 国分寺地域相談センターなみき042(300)3702

## 住民主体の見守り、支え合い活動を！

### ～国分寺市の小地域ケア会議での取り組みを通して～

国分寺地域包括支援センターもとまち 藤井日向

核家族化や高齢化率の増加に伴い、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が今後ますます増えていくことが予想されています。そうした状況の中で、高齢者の孤立化を防ぐためには、地域の中で住民同士のつながりを強化し、日常生活の中で相互に支え合える関係づくりがとても重要です。地域包括支援センターは、高齢者の生活支援のために、各種サービスや制度、地域で行われている様々な活動等（総称して「社会資源」と呼びます）を調整したり、それらのネットワーク化を推進する役割を持っています。高齢者の生活を支えるのは、行政の施策や介護保険サービス、医療などの公的な資源だけではありません。前述の通り、地域住民同士の自主的な支え合いや見守りも、ますます重要な社会資源の一つとなります。

とは間違いありません。

地域包括支援センターでは地域課題の把握や関係機関とのネットワークづくりを目的として、年に3回の「小地域ケア会議」を開催しています。この会議では、地域のケアマネジャーや介護サービス事業者、社会福祉協議会、民生委員、地域で精力的に活動されている各種支援団体のメンバー等、高齢者を支える様々な支援機関や関係者に出席頂き、それぞれの立場から考える地域課題の共有や検討、顔の見える関係づくりを進めています。

国分寺地域包括支援センターもとまちで開催した平成24年度最後の「小地域ケア会議」では、担当エリアにある21の老人クラブの皆様にお集まり頂き、地域の高齢者を取り巻く課題や実際の支援状況について話し合う機会を持ちました。検

討の中で、老人クラブの加入率の低下で運営に苦慮している、個人情報への壁があり加入者以外の高齢者の実態が把握しきれない、地域によって自治会や地域包括支援センターとの連携・協力体制に格差がある等の課題があげられました。

しかし一方で、独自の見守り活動の実施、会報誌の配布機会を通じた高齢者世帯の把握、介護予防をはじめとする様々な活動の企画等、各老人クラブで行われている様々な工夫や支え合いへの意欲も見えてきました。

現在個々で取り組んでいる活動のアイデアを老人クラブ同士や地域包括支援センターで共有できたことは一つの大きな成果でした。課題はありながらも、横のつながりを丁寧に結び付けていくことで、今はまだ点かもしれない地域の潜在的な力が線に、さらにそれが面に変容していける可能性を強く感じることでできる機会となりました。

老人クラブをはじめとした地域とのつながりを、今後具体的にどう掘り深めていくか、そして高齢者支援にどのように活かしていくかという宿題を頂きましたが、継続的な「小地域ケア会議」の開催や出張出前講座など積極的に地域に行き機会を通じて、これからも共に知恵を出し合いながら、新しい支え合いの形を考えていきたいと思います。